

コロナ禍での感染予防の続く中、本年9月25日東京武道館第二武道場で四、五段位審査会が行われました。東剣連、居合道部会の先生方、役員の方々には感謝申し上げます。四段は35名受審し、9名合格26,5%、五段は27名受審し、10名合格38,5%でした。審査員として気付いた点を幾つか申し上げます。

四段では、基本動作の不充分さが目立ちました。立ち座りの安定感、形動作の崩れ、真っ直ぐに敵に向かった基本姿勢が出来ていません。前足の囲い足、後足の撞木足などを直さなければ無駄を取ることはできません。携刀姿勢の左手の位置、刀角度、下げ緒の乱れ、座する時の刀の扱いで鐙が床に触れている人、帯刀時の帶上からの左手の押えが不十分な人も見受けられました。技を行う前の基本動作を見直し、小さな事に気を配ることから稽古をして下さい。

五段では、スピード感と勢いを感じましたが、それを優先したことによる見落としが目立ちました。

二本目指定の受け流しは、「胸元近く頭上前方に抜き上げる」が不正確で胸元から外れていました。そのため受けた形が左に受け流れた人、右外に回った人が見受けられました。

三本目指定の諸手突きは、抜き打ち角度が不正確、その後の「後足を前足近くに送り」が勢いをつけて踏み越している人が見受けられました。「後ろの敵に振り向き、右足を軸に左回り回って刀を引き抜きながら左足を左に踏みかえ、受け流しに頭上に振りかぶり、後ろの敵に向き直ると同時に右足を踏み込んで真っ向から切り下す」も勢いで行われていましたが、形を十分に吟味して丁寧に体捌きしてほしいと思います。

四本目指定の顔面当てで、「後ろの敵に向き直ると同時に右こぶしを右上腰に当てて刃を外側にして刀を水平にする」が不十分でこれも形を吟味してほしいと思います。

五本目指定の四方切りで「後ろの敵に振り向きながら右足を軸にして左回りに回り、左足を左に踏みかえて脇構えになりながら受け流しに振りかぶり」を雑にやっけてしまっており、その意味するところを考えていただき稽古して下さい。

教士八段 市川 学